

五・七・五で描かれた情景を堪能 第21回黒羽芭蕉の里全国俳句大会

6月27日(日)、黒羽市内のホテルで「第21回黒羽芭蕉の里全国俳句大会」が開催されました。

事前に募集していた兼題の部には、全国各地の712名から2348句の応募があり、大会当日の席題の部にも169人が参加して投句。

参加した皆さんは、俳句づくりの腕前を競いながらも、俳句で表現されたさまざまな情景をたつぷり堪能していました。

選者には、本市ゆかりの黒田杏子先生をはじめ各方面でご活躍中の5名の先生方をお招きして選句をしていただきました。

今回受賞した作品と作者は次のとおりです。(推薦と特選のみ掲載、敬称略)



参加者をする作の部の席題

兼題の部

黒田 杏子 選

○推薦(栃木県知事賞)
十五夜の月出て仕舞ふ畑仕事
大田原 大高 亢子

○特選
ねんねこの夢の続きも渡される

鈴木 正治 選

○推薦(大田原市長賞)
もぐら追ふ初めの一打戸口より
福島・福島 蒲倉 琴子

○特選
醬油屋のノツポ煙突鳥雲に
福島・福島 伊藤ユキ子

引潮のままの象潟蛙鳴く
栃木・宇都宮 川上 光枝

駈けぬけし那須七党や大枯野
栃木・宇都宮 加藤多美子

木島 松穹 選

○推薦(栃木県俳句作家協会会長賞)
畑のものを畑で燃やす年の暮
広島・広島 重西あつ子

○特選
手渡しにもらう郵便日脚伸ぶ
大分・大分 猪原アヤ子

沈む日は母のぬくもり蓮華草
栃木・宇都宮 小林伊戸子

妻を呼ぶ山彦ばかり春の山
栃木・鹿沼 田野井一夫

席題の部

黒田 杏子 選

○推薦(栃木県知事賞)
この鮎もやがて串刺しとべはしれ
岩手・盛岡 木村 耀子

○特選
解禁の前夜しづけき佃鮎
大田原 大高 亢子

青柳 志解樹 選

○推薦(朝日新聞社賞)
篝火に鮎解禁の夜明待つ
栃木・那須塩原 益子 秋穂

○特選
釣り上げし鮎が光をまき散らす
大田原 志賀 省仁

能村 研三 選

○推薦(下野新聞社賞)
百枚をひと塊の青田風
茨城・筑西 谷口千代子

○特選
佃鮎釣師に似たる面構へ
栃木・小山 大塚 昭夫

鈴木 正治 選

○推薦(大田原市長賞)
那須山は永遠の水甕青田波
大田原 藤田十紀子

○特選
青梅雨や殺生石に石の顔
栃木・那須塩原 羽山 洋子

木島 松穹 選

○推薦(栃木県俳句作家協会会長賞)
読めぬ字の大額据えて鮎の宿
大田原 細井 清夫

○特選
懐の深き那珂川鮎遡上
大田原 伊藤くわ子

問い合わせ
黒羽芭蕉の里全国俳句大会実行委員会事務局(文化振興課文化振興係)
☎(23)8718